北政所おねの生涯とその役割

2023年10月13日　於 妙心寺 法堂

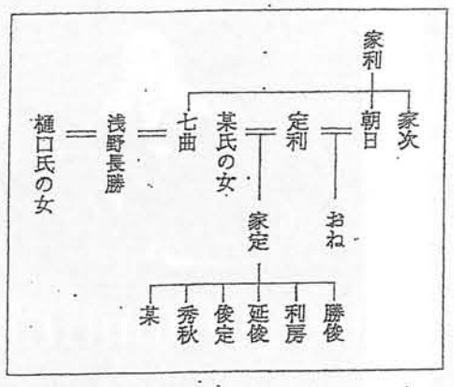
田端泰子

1.「北政所」の実名

- ねね
- おねい、ねい、ね ……信記に「寧子」
- 「おね」…… **秀吉の手紙にあり**（「おね」「おねへ」）

2. おねの実家杉原（木下）家

↓



杉原（木下）・浅野氏関係図

- 藤吉郎秀吉
  天文16年（1537）生まれ

- おねの生年
  - 天文11年（1542）説 …… 5才ちがい
  - 天文17年（1548）説 …… 11才ちがい
  - 天文18年（1549）説 …… 12才ちがい

∴ 天文11年生まれと推定。

- 没年は 1624年（寛永元年） 83歳。

3. おねと木下藤吉郎の結婚 …… 永禄4年（1561）（藤吉郎25才、おね20才）

朝日の反対

浅野長勝・七曲夫妻が援助（浅野長勝は5歳）

婚姻の様子 ……「土間に簾掻藁（すがきわら）に薄縁（うすべり）を敷いて」

4. 長浜時代のおね

- 信長の浅井氏攻略　江北三郡を藤吉郎が拝領
  天正元年（1573）　天正2年（1574）

NO1

「織田信長書状」

おほせのことく、こんとハこのちへはしめてこし、けさん（見参）ニいり、しうちやく（祝着）に候、ことにみやけ色〳〵うつくしさ、中〳〵めにもあまり、ふて（筆）にもつくしかたく候、しうき（祝儀）ハかりに、このはうよりもなにやらんと思ひ候へハ、そのはうより見事なる物もたせ候あひた、へちに心さしなくのまゝ、まつ〳〵このたひハとゝめまいらせ候、かさねてまいりのときそれにしたがふへく候、なかなか（鼓中）つく、それのみめふり、かたちまて、いつそやみまいらせ候折ふしよりハ、十の物、廿ほともみあけ候、藤きちらうれん〳〵ふそくのむね申のよし、こん五たうたんくせ事候か、いつかたをあひたつね候とも、それさまほとのハ、又二たひかのはけねすみあひもとめかたきあひた、これよりいこは、みもちをようくわいになし、いかにもかみさま（上様）なりにおも〳〵しく、りんき（悋気）なとにたち入候てハ、しかるへからす候、たたし、おんなのやくにて候あひた、申ものゝ申さぬなりにもてなし、しかるへく候、なをふんてい（文体）に、はし（羽柴）ハにはいけんこひねかふものなり、又々かしく、

朱印

（墨引）

「藤きちらう（ひて吉）　おんなとも　のふ」

「木下藤吉郎書状」

かへす〳〵、それさま御ことわりにて候まゝ、まちの事ゆるし申候。よく〳〵此ことわり御申きかせ候へく候。以上。

まちのねんく（年貢）申つけ候につゐて、文くわしくは、いけん（意見）申まいらせ候。

一まち人の事、われ〳〵ふびんかり候て、よろつようしやせしめ候ところに、すい（自然）になり申候て、さい〳〵（再々）の百しやうを、まちへよひこし申候事、くせ事にて御入候事。

一よそのり（領地）やうちのものよひかへし候事は、もつともに候へとも、きたのこおりのうち、われ〳〵りやうふんのものよひこし候て、しよやくつかまつり候はぬをよく候とて、さい〳〵（再々）をはあけて、ゑん〳〵（縁）によひこし申候事、しよせんまち（町）人にねんく（年貢諸役）しよやくゆるし候ゆへにて候まゝ、たゝ今申つけ候事、

一かやうに申つけ候へとも、それさま御ことわりにて候まゝ、せん〳〵のことくねんくしよやくゆるし申候まゝ、ふきやうのものともに、此よし御申つけ候へく候。かしく。

十月廿二日　　こほ　　藤きちらう（ひて吉）

- 天正2年ごろの藤吉郎秀吉のおねあて書状（おね33歳）
  秀吉は町人の年貢免除をやめる方針 → おねが反対、もとどおり免除

- 天正4年ごろの織田信長書状（おね35歳）
  安土城の主君に対し、おねが挨拶。
  おねに「上様」たれと訓戒。

㊐ 両書状から読み取れること
① 武将の妻。
② 城主の妻。
③ 主君への挨拶（夫不在時

5.「関白」と「北政所」

- 秀吉の昇進　天正13年(1585) 内大臣、正二位 → 従一位、関白。
- これによりおねは「北政所」

天正15年 従三位、16年 従一位。

- 「北政所」の役割
  - a. 天皇家・公家・寺社とのおつきあい。
  - b. 養子・養女の養育と教育。
  - c. 大名家との交流と人質の管轄。
  - d. 秀吉の留守を守り、情報収集や物資輸送。
- 天正16年4月 後陽成天皇の聚楽第行幸。(おね 47歳)

∴ おねの役割の急激な拡大。

6. 天正18年の秀吉の後北条攻め

- 天正17年末 秀吉は小田原征伐発令。

大坂城・聚楽第におね。淀殿はおねを通じて呼びよせる

∴ 正室と側室の序列は明白。おねと淀殿は「両人のかゝさま」

7. おねへの所領給与。(天正20年・文禄元年 1592)(おね 51歳)

知行方目録之事

一千石　平野庄
一定納千石　同
一定納三百六十九石　但金子拾九枚　但び(ママ)銭三百六十九貫文　斗米ゟて　同
一三千九百八十石　天王寺
一千四百五石弐斗四升　きれ
一四百四十壱石弐斗弐升　ゆやの嶋
一三百九十壱(ママ)石八斗一升　たしま
一四百九十石九斗弐升　中川
一四百拾八石弐升　あたゑ
一三百五石五斗　てやし寺
一弐百石　玉ゆくり

合壱万壱石七斗

右全可有領知候也
天正廿年三月廿三日　秀吉朱印
北の政所殿

8. 醍醐の花見

- 慶長三年(1598) 3月15日。
- 「東次第」「盃争い」

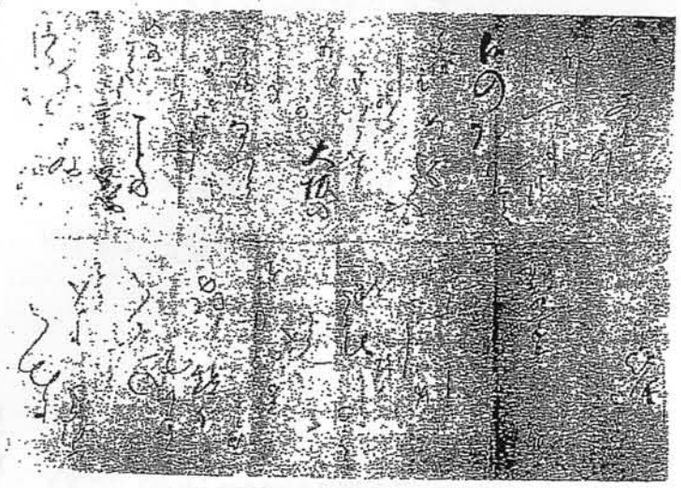
∴ 正室として高い地位を保持。

9. 後家尼時代

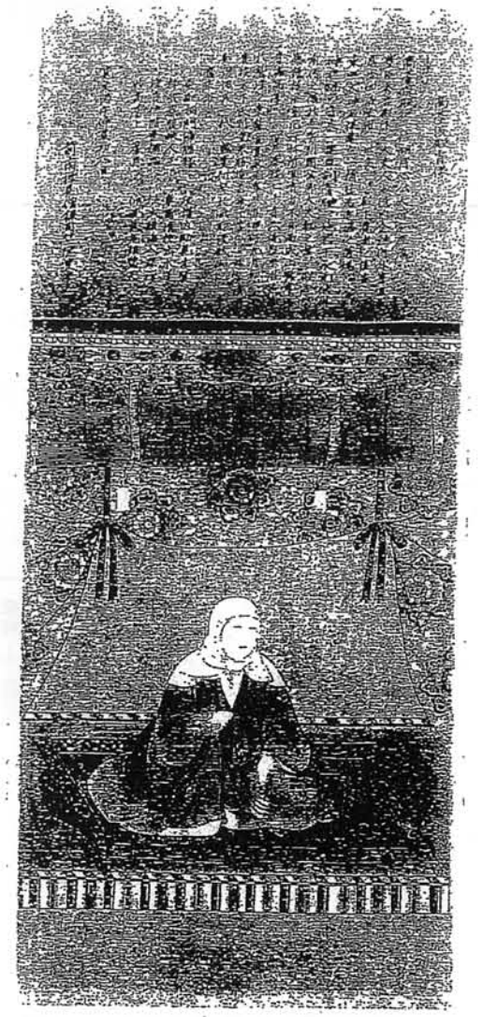
京に住み、のち高台寺に入る。

∴ 秀吉の菩提を弔う役割。

10. 大坂城落城後のおね　元和元年(1615)
(おね 74歳)



おね自筆の手紙(『豊太閤真蹟集』より)



北政所おね(高台院)(秀吉清正記念館蔵)

「大坂の御事ハ、なにとも申候ハんすることの葉も御入候ハぬ事にて候」伊達政宗あて。政宗娘五郎八姫と、家康6男松平忠輝は慶長11年に婚姻していた。忠輝は夏の陣の合戦に遅参。このことを心配。おねには人脈があったことを示している。

11. 北政所おねの役割。　おね(1542〜1624)　83歳で没。

- 秀吉生存中から多様な役割を果した。
- 秀吉死後は後家としてのつとめが主。そのかたわら豊臣家・大名家を庇護。

∴ おねは豊臣政権の「かゝさま」

参考文献　田端著『北政所おね』ミネルヴァ書房、2007年。